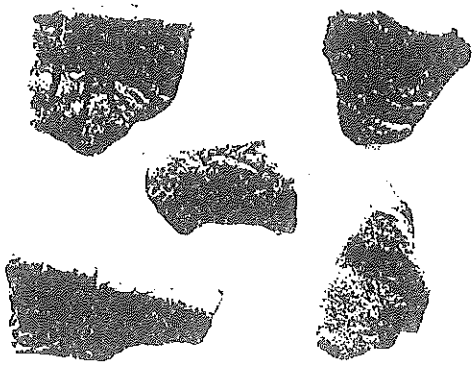
逗子市 郷土資料館だより

平成５年８月１日　発行　　ＮＯ．３

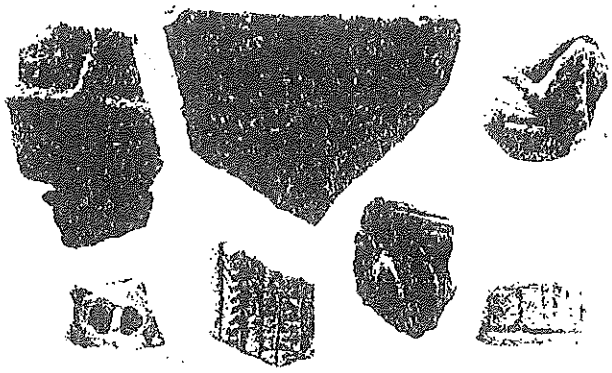
前回の、縄文時代の石器に続いて、今回は縄文土器の解説です。逗子市では、縄文時代の遺跡は非常に少ないのですが、沼間や披露山から、遺構・遺物が検出されています。今回の郷土史料館だよりＮＯ．３では、縄文土器の基礎的な解説と発掘によって出土した縄文土器の説明を行いたいと思います。

ＮＯ．２で説明しましたが縄文時代は、主に縄文土器、打製石器・磨製石器、弓矢が使用されていた時代で、紀元前後まで数千年続いた時代であり、生活としては、鹿・猪などの狩猟、漁撈、貝や木の実の採集が中心となっていた時代です。縄文時代は、往々集落が台地上に営まれ、共同体において抜歯*1・屈葬*2・土偶*3などが存在する呪術的な性格の強い、身分の上下関係が存在しない社会でした。

縄文土器は、紀元前約１００００年前に日本に土器が発生してから、紀元前約３００年頃まで日本列島全域で使用された素焼きの土器の総称で、土器の一部に草木の茎や繊維などをコヨリのように撚り合わせた紐を押し付けた縄目模様が見られることから、この名称がつけられました。縄文土器は、土器の形や表面に付いた模様や形によって、古い順に草創期(約12000年前)・早期(約9500~6000年前)・前期(約5000~6000年前)・中期(約4000~5000年前)・後期(約3000~4000年前)・晩期(約2300~3000年前)の６つの時代に区分されます。土器は、粘土紐を巻き上げたり、輪状の粘土を積み上げたりして作られ、乾燥の後に屋外で枯れ葉や枯れ枝を使って焼く野焼きにより焼かれました。表面には、縄文土器の名前の由来となった、撚り紐を使った縄文、貝殻や竹などの中空の植物の茎や骨を使った条痕・圧痕・刺突文沈線文、表面に細い粘土を張り付けた隆線文などがあります。また、縄文土器でも表面に何も模様のない無文の土器もあります。土器は、主に食物の貯蔵や炊事の時に煮炊用の道具として使われました。



１．披露山遺跡出土縄文土器



２．岩が谷遺跡出土縄文土器

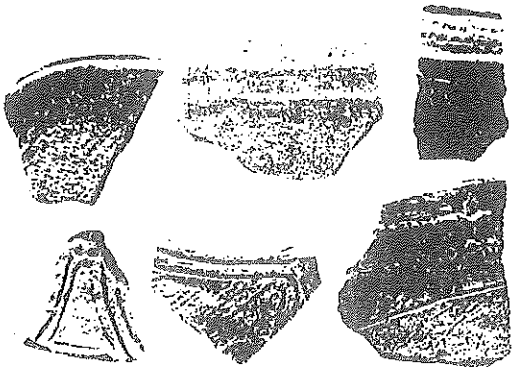
さて、逗子市内で出土した縄文土器についてですが、市内の各遺跡からは縄文土器の完全な形での出土はなく、土器片のみの出土となります。

写真の１は披露山遺跡から出土した縄文土器で、鵜が島台式と呼ばれる縄文時代早期から諸磯式ないし五領が台式と呼ばれる前期から中期の初頭ぐらいまでの土器です。

写真の２は岩が谷遺跡から出土した土器で、勝坂式と呼ばれる中期の土器です。

写真３は披露台遺跡から出土した土器で、加曽利式や堀之内式と呼ばれる縄文時代後期の土器です。

これらの土器の他に、土錘が出土しています。写真の４が披露台遺跡より出土した土錘です。これらの土錘は壊れてしまった土器片を再利用して、土器の一部に縄掛けのための糸がかりを作って使用しました。



３．披露台遺跡出土縄文土器

＊１　前面の歯を１本以上抜去する風習
　　成人儀礼に伴う行為と推定される
＊２　死体の手足を折り曲げ埋葬する方法
＊３　人の形に作った土製の人形で、生殖や豊饒に関係するといわれている

４．披露台遺跡出土土錘

（文化財専門員　宮　坂　淳　一）

1993年（平成5年）８月１日　発行
逗子市郷土資料館だより　ＮＯ．３
編集発行者　逗子市郷土資料館
逗子市桜山8丁目2275番
電　　話　0468-73-1741
©　逗子市教育委員会　1993